



樂園への招待
Episode of Elliot 1

登場人物紹介

ヴィクトル
聖歌隊の指導者
エリオとは
深い関係が…？

エリオ 12歳
本名はエリオット
リヒテンベルク神学校3年生
聖歌隊のソプラノ担当

ジョシユア 12歳
聖歌隊所属
何だかんだでエリオとは
腐れ縁

ノア 12歳
大人しくてまじめな
優等生
エリオと同室

リヒター 12歳
ノアと同じ
図書クラブ所属
寄宿学校の監督生



前回までのあらすじ

リヒテンベルク神学校は、
良家の子息が暮らす
寄宿学校で、優等生のノアは
憂鬱な気持ちで寄宿生活を
送っていた。

ある日、部屋替えて、二人部屋に
移動したノアは、同室生エリオ
に出会う。

歌の才能にあふれ、天真爛漫な
彼に気後れするノアだったが、
次第にエリオへ心を開いていく。

神学校には天使と呼ばれる
生徒が選ばれ、聖歌隊で
中心的な存在となる。

エリオが今年の天使候補として
みんなから期待されていた。

エリオは孤児であり、聖歌隊で
歌うために神学校の生徒と
なった、ほかの生徒と異なる
事情を持っており、
聖歌隊の指導者ヴィクトルが
彼の親代わりをしていた。

しかし、なぜかエリオは
ヴィクトルや聖歌隊で歌う
ことを避けているようで…

attention

この作品は一部に少年愛の描写があります。

見えるかい
エリオ





あの建物が
きみが
これから暮らす

リヒテンベルクの
神学校だ

わ
ああ

友達
出来るかなあ

エリオなら
大丈夫だ



ここは私たちの
安寧の地



此処はきみを
苦しめるものも

悲しませる
ものもない

天使になったら
ずっとここで
暮らせる

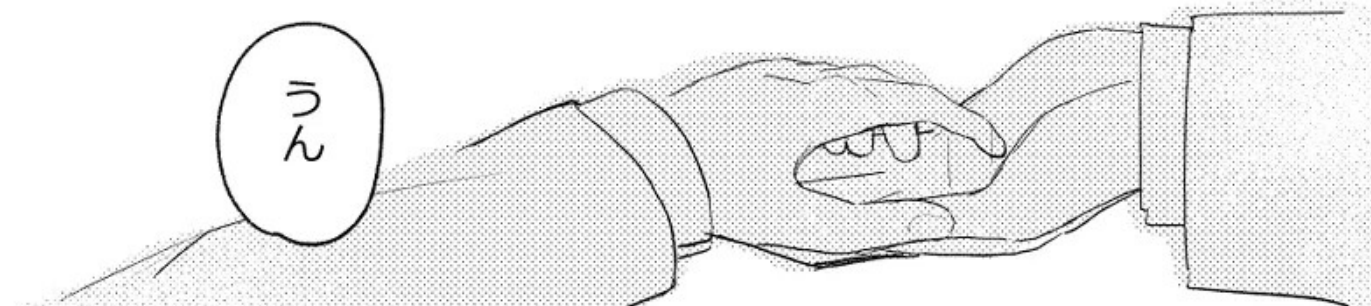


私のもとで
天使を目指そう

私はきみに
全てを捧げよう

きみの歌が
救いになるのだ

うん





ぼく
天使になるよ



天使になって
ぼくの歌を

たくさんの人を
幸せにするんだ

幼い頃に
交わした約束は
あつたの願いでも





けれど
その約束が
ぼくを
苦しめている



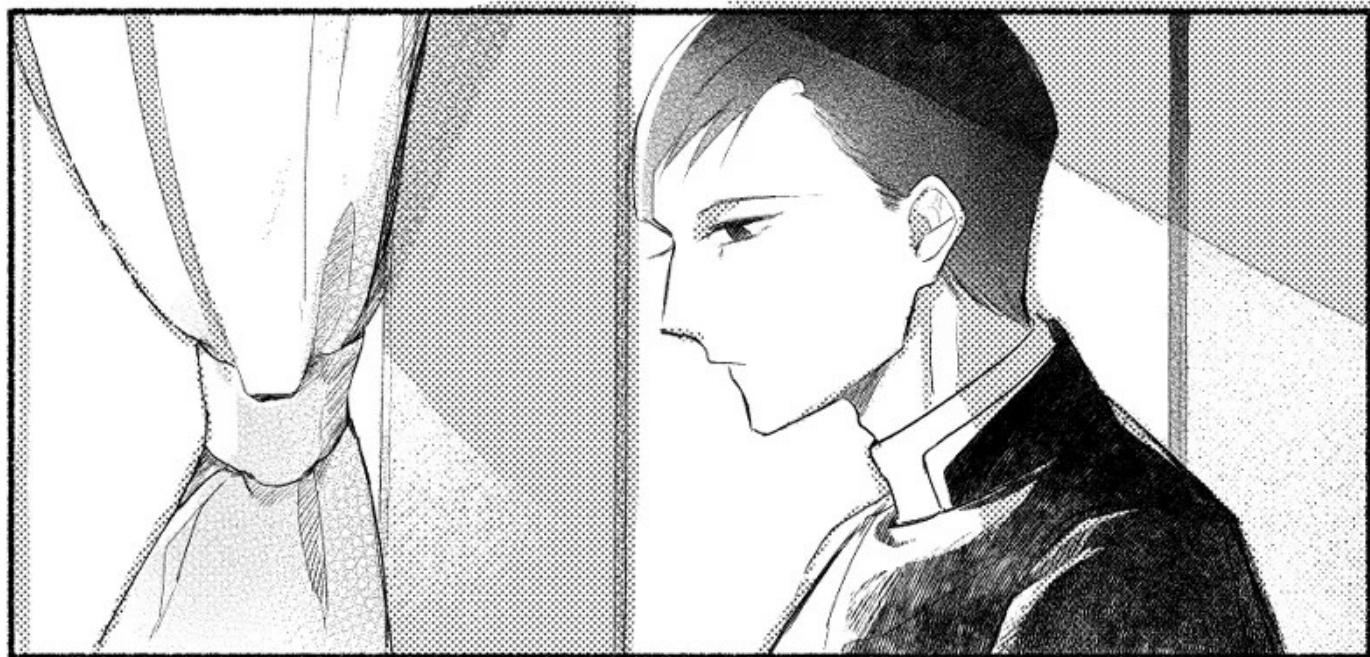
ぼくの言葉は
ヴィクトルには
もう届かない



エリオ!









もうヤダーっ!!



あー
聖歌隊の練習が
息詰まってて
鬱溜まって
いるんだらう

えっ

聖歌隊のみんな
ピリピリしてる

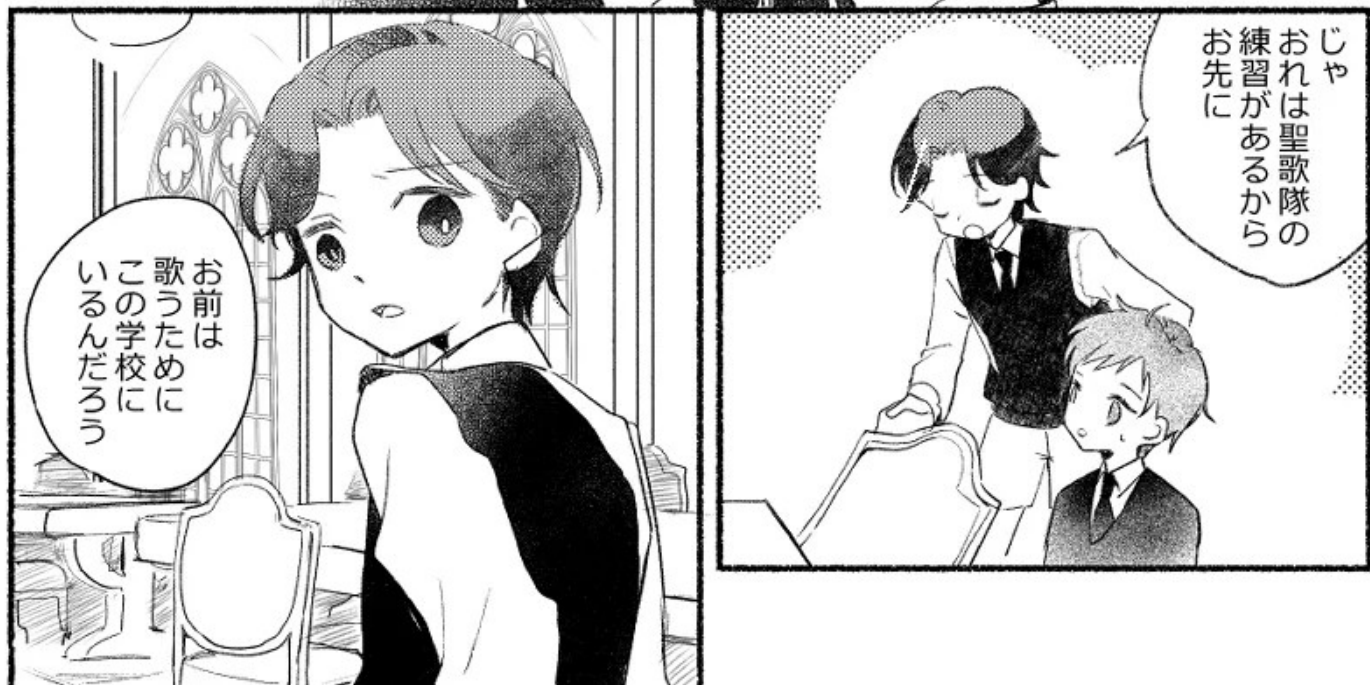
ヴィクトル先生も
なんか怖いし



ねえジョシユア
あの子聖歌隊の
シモンだよね
どうしたの
かな?

ん?
もぐもぐ









第一ソプラノ



またかよーッ

もう一回



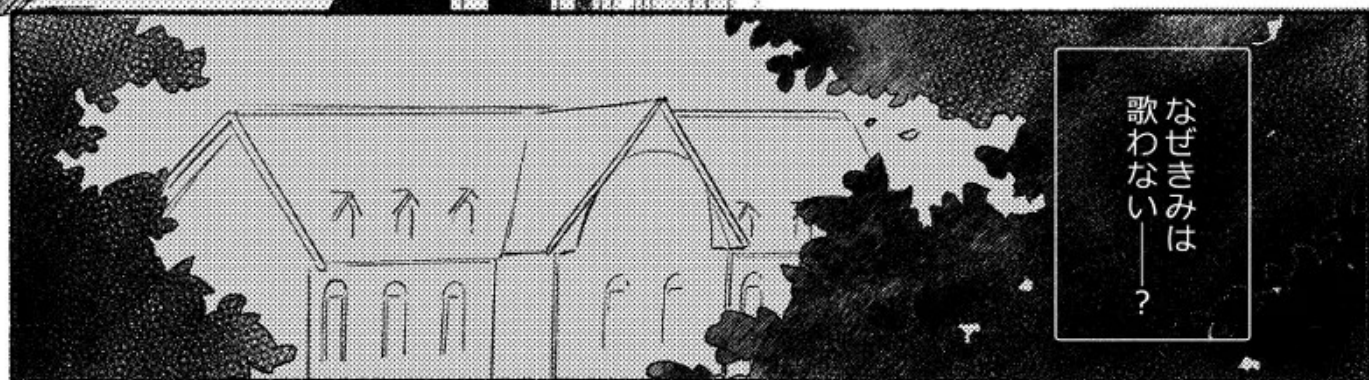
みんなの声をよく聞いて

高音が引かずっているもっと柔らかく



ソプラノの音量が圧倒的に小さいパートの人数が少ないが

何よりも





ごめんね
差し出がましい
こと言つて

さっきの
ジョシユア
のことが
気になつて

うん
大丈夫だよ

彼エリオに
練習来てほしい
みたい
だったから

歌わなくて
いいの？

エリオの
歌には
力があるよ

礼拝で
きみの歌を聞いて
ぼくは初めて
祈りたいと思えた

学校のみんなが
きみの歌を
認めている

みんな
きみの歌
聞きたいんだ





ほくのこと
心配してくれて
ありがとう



すぐに
説明するのが
難しいんだ

一旦
部屋に
戻ろうよ



さあ
ノア
ニュウニ



一緒だと
あったかい
から

エリオって
一緒に寝るの
好きだよ



えっ
きみの
ベットで!?

たまには
一緒も
いいでしょ



そういえば
前に
エリオが
部屋に戻って
こなかった時が
あったな
あの日はどこで
寝てたんだろう…



えーっとね

いつも
隣にいるのに

考えてみれば
ぼく
エリオのことを
何も知らないんだ



それで
ぼくのこと
だっけ

何から
話そうかな



ぼくをこの学校に連れてきた
ヴィクトルとの約束でもあった

この学校の天使になって歌うことは
ずっとぼくの目標だった



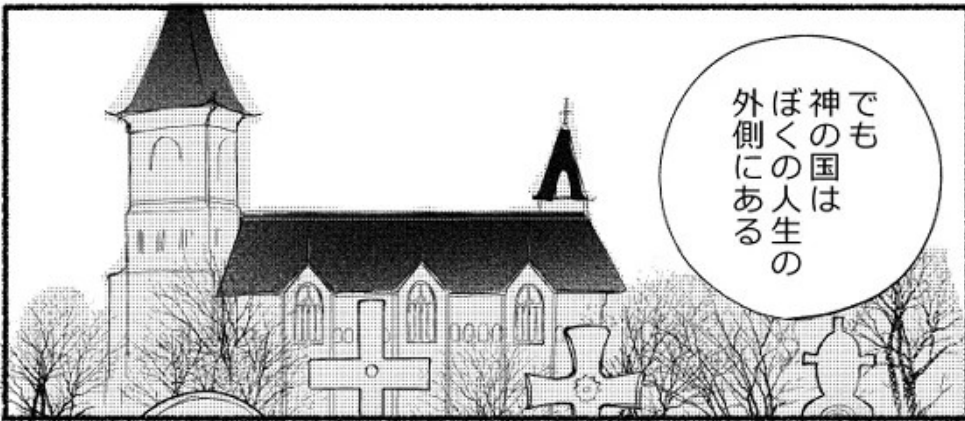
うん

すごい簡単なことなんだ



でもそうしてぼくが
目指してた未来は

今のぼくにとつて
幸福じゃないんだ



でも神の国は
ぼくの人生の外側にある



この学校に来た時は
ママを亡くして
さみしかった

ママに会いたくて
神の国を目指そうと
思ってた



昔ね
神父がぼくらに
教えてくれたんだ



ぼくらの
背中には
目に見えない
天使の羽が
ついていて

今にその羽が
大きく育って
この寄宿舎から
飛び立って行く
のだと――



でも
ちがった



ぼくもいつか
みんなと一緒に
外へ飛び立つんだと
思っていた



ぼくはずっと
ここで歌うんだ
卒業したら
教会の修道院で

ヴィクトルや
ほかの神父たちと
一緒に

そしたら
みんなと
会うことも
できない

以前は
それでも
いいと
思ってた

でも今は
ハッキリと
それは嫌だ
って思
うんだ

ぼくはも
っと色
んな場
所へ行
きたい
し卒業
してか
らも
みんな
と話し
たい

将来ど
うなる
かわ
からない
けど

だから
今でき
ること
を頑
張りたい

そう
思える
ように
なった
のはね

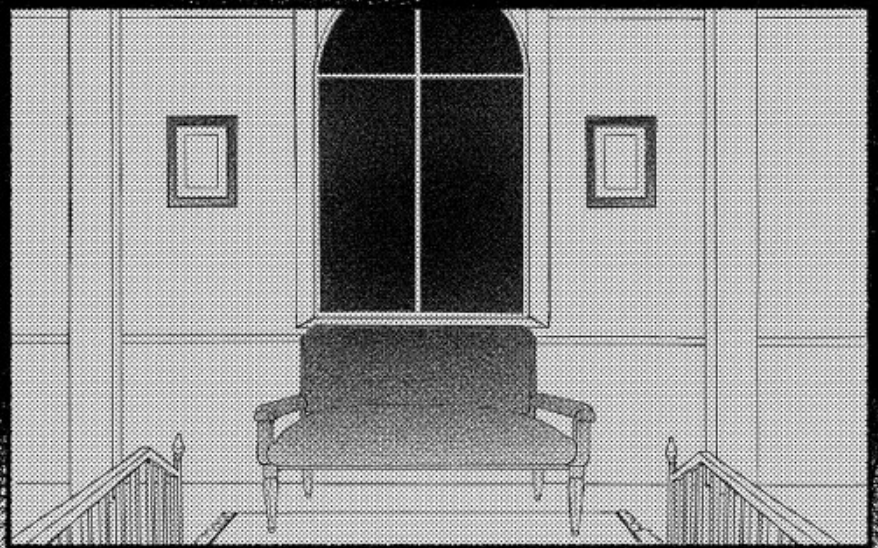
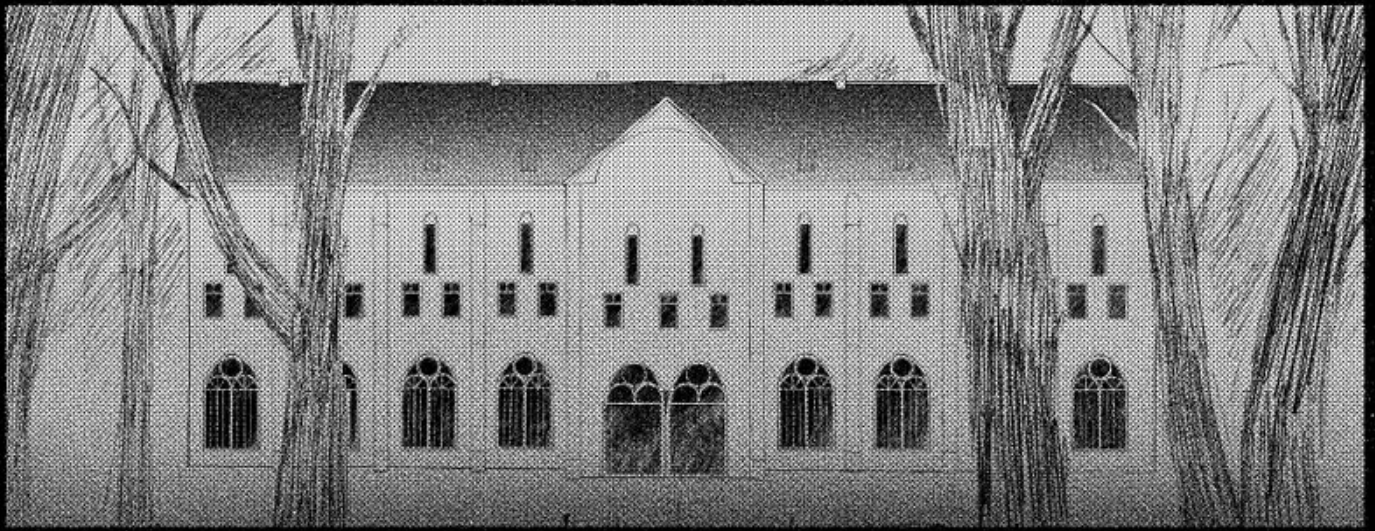
ノア

きみの
おかげ
だよ

きみと
これか
らも一
緒に生
きてい
きたい

きみが
ぼくに

楽園の
在り処
を教え
てくれ
たんだ
よ



寄宿舎の
西棟は
神父たちの
部屋

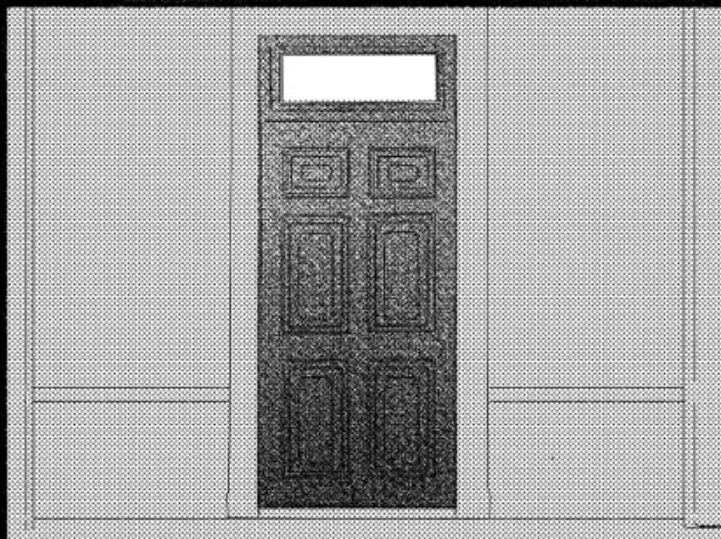
他の神父に
見つからないと
いいけど

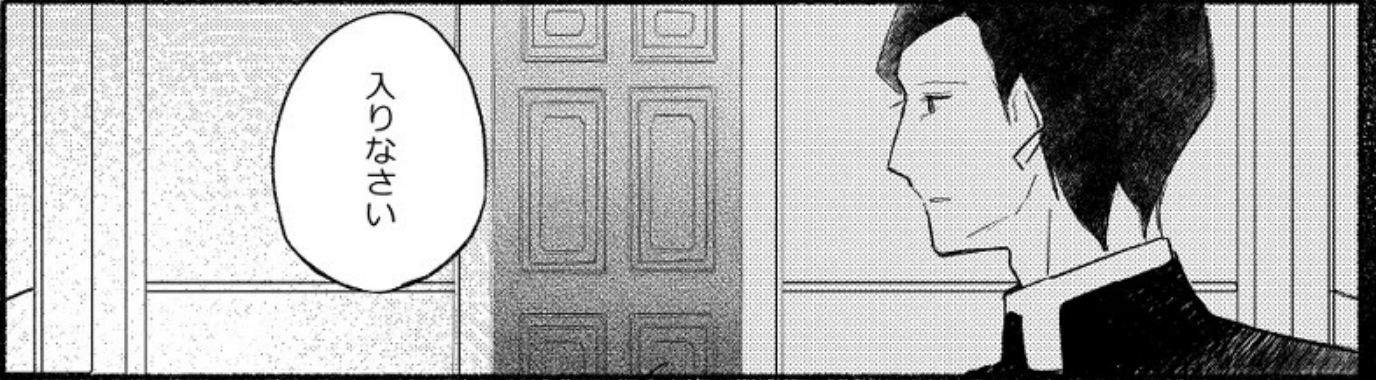
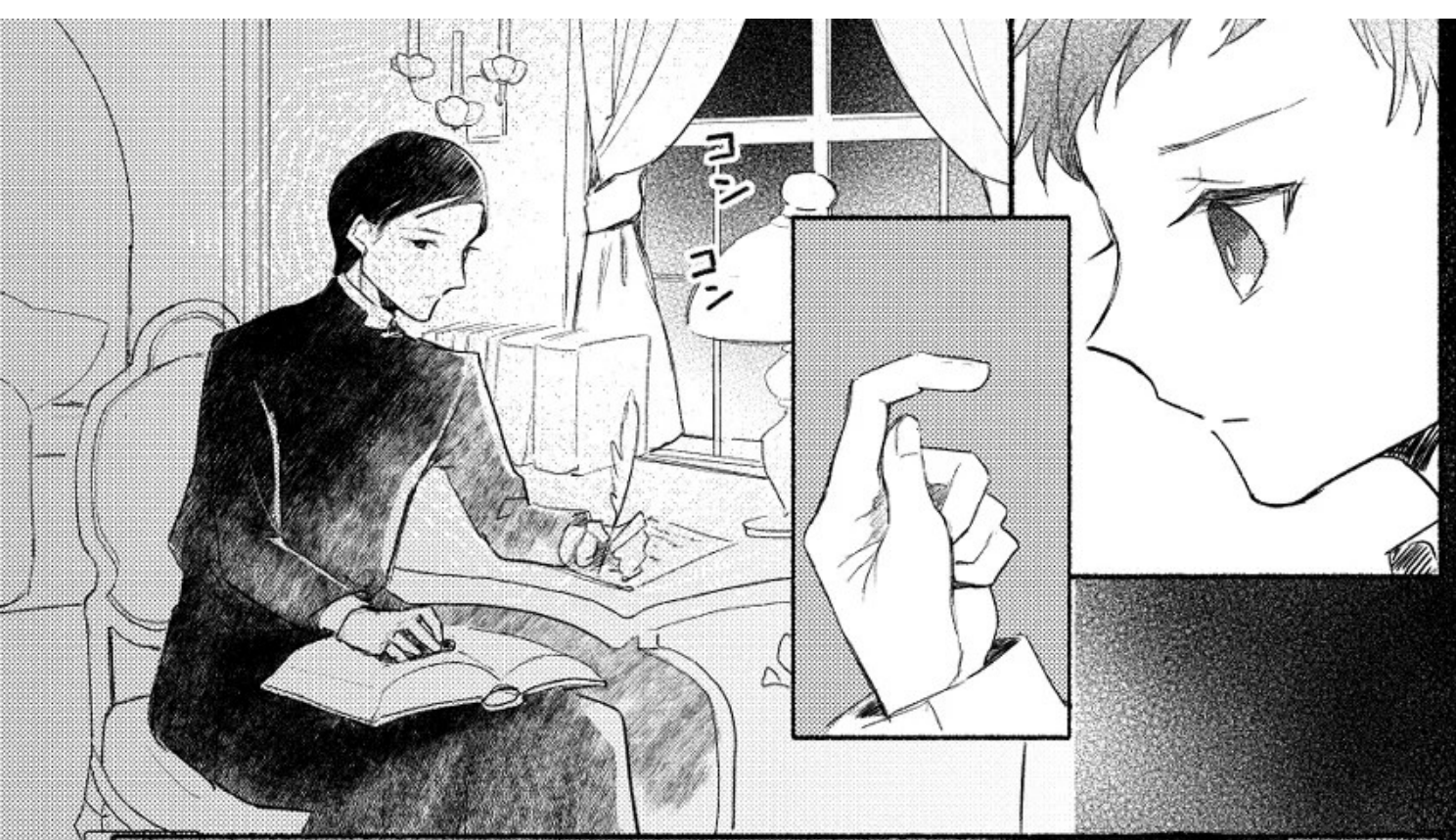
ヴィクトル！

今日ね
ぼく

ヴィクトル

あのねっ







きみが自ら
訪ねて来るのは
久しぶりだな



ヴィクトル
あなたに
伝えることが
あります



何か用かな

こんな
夜更けに



こちらに
来なさい
エリオ

嫌です



天使には
ならない



ぼくは
あなたとの
約束を
果たせません



今回は
それだけを
言いに来ました

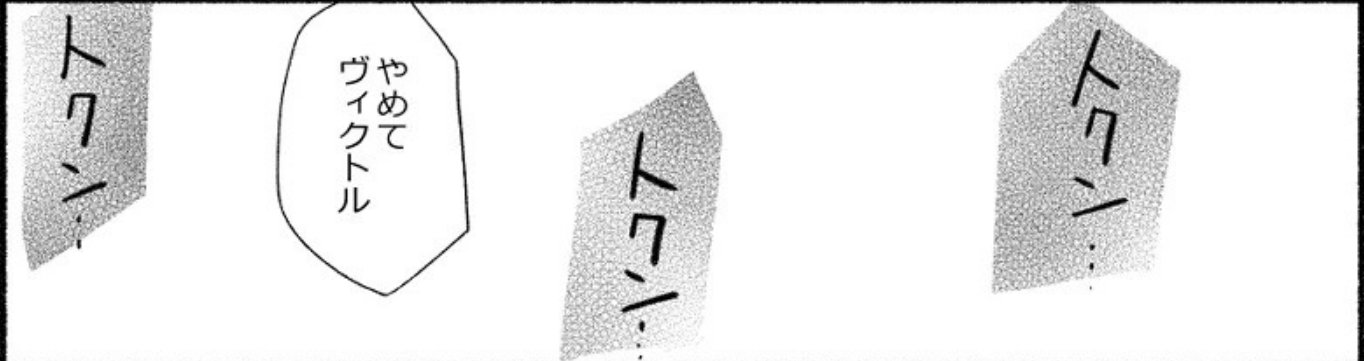


待ちなさい





愛している
エリオ



やめて
ヴィクトル

エリオ

エリオ

エリオ



やめて
ください

ぼくは
あなたと
別れるつもりで
来たんだ

あれ…？

あなたから

自由に
なりたくて

おかしいな…

トレン

トレン



エリオ



きみの悲しみは
私が一番
知っている



私に
話して
みなさい

今までの
ように

寄宿舎の
生徒たちは
みんな天使の翼を
持っている



ノアも
ジョシユアも
リヒターも

みんなその羽で
ここから飛び立って
いくんだ

ぼくにも
その羽があつた
はずなんだ

ぼくも
頑張れば

みんなと同じに
なれると
思ったんだ



エリオ

きみは本当に
よく頑張つて
いるよ



サラ...



ああ
そっか

来なさい

エリオ

あ

ぼくは
自分でその羽を
失くして
しまったんだ



グワッ...



エリオ...

あ？

ヴィクトルッ

あ？



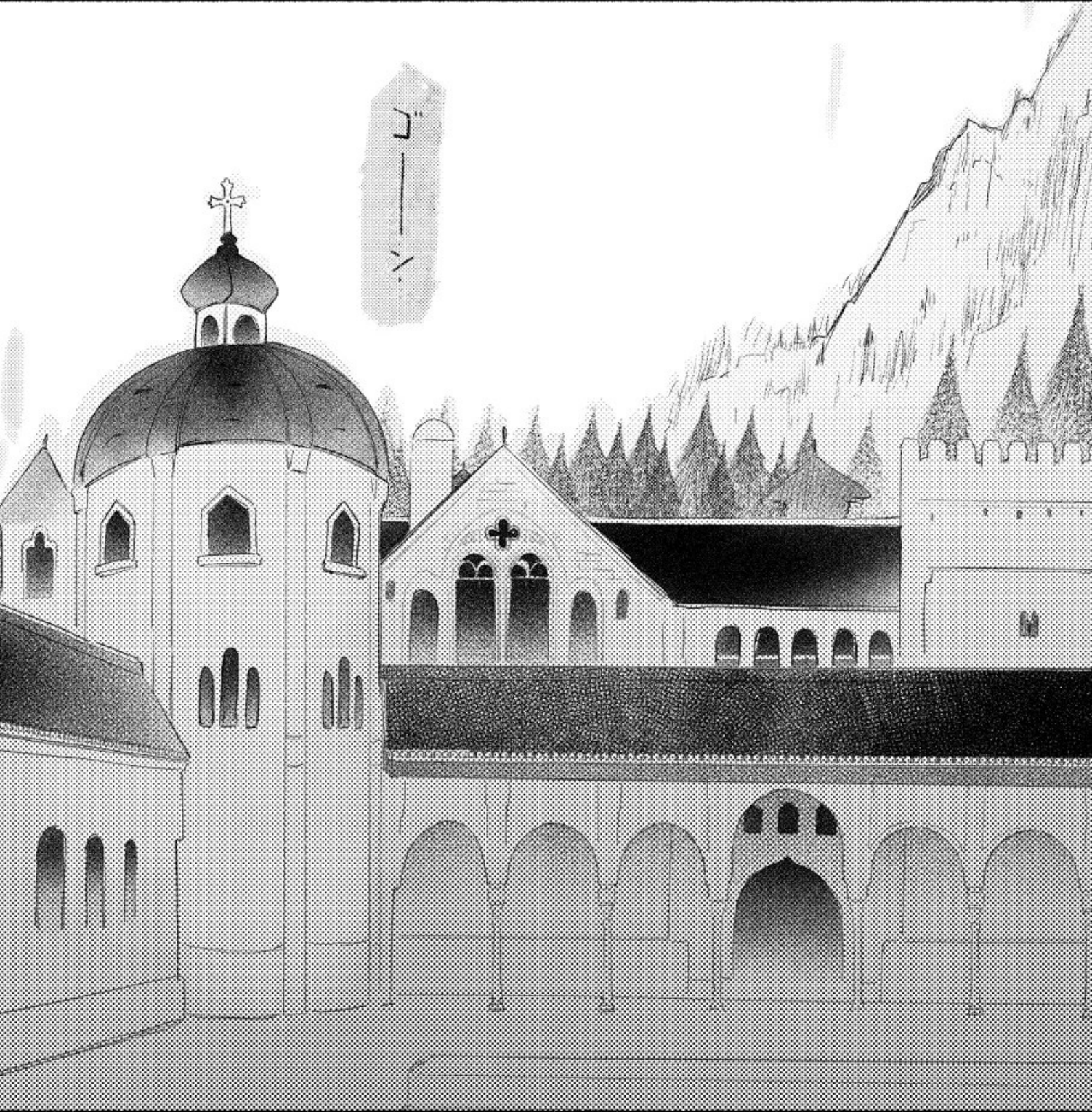
じりじり

ノアが遠くに
行ってしまっ


エーレン

ゴーン

ゴーン






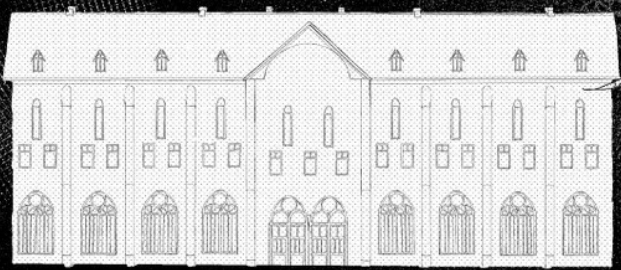


楽園への招待
Episode of Elliot 2

R18
ADULT ONLY



神学校に来たのは
理由がある
生きるための
居場所が
他になかったから
じゃない
おそらく
ぼくは
許されたいんだ
ずっと
自分自身を
責めてきた
ぼくのせいだと
ママが死んだ
あの日から









こうなったのは
ぼくのせいだ

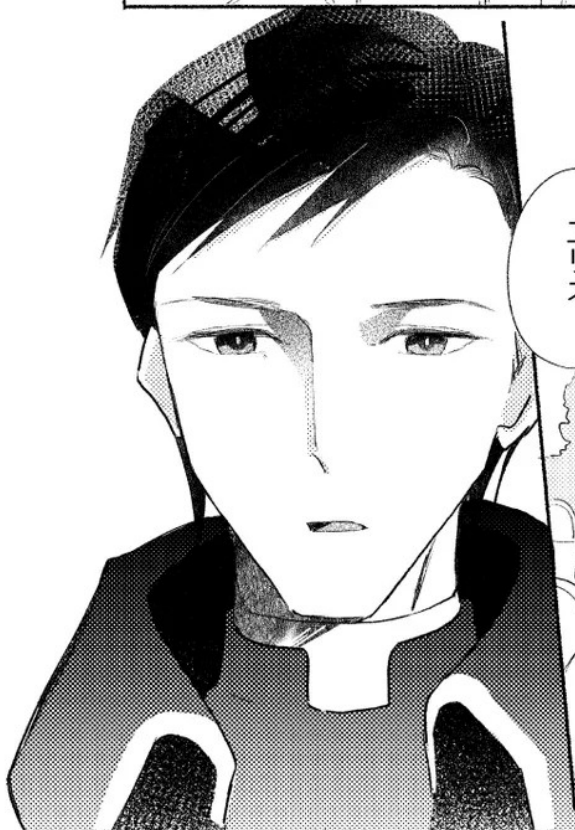
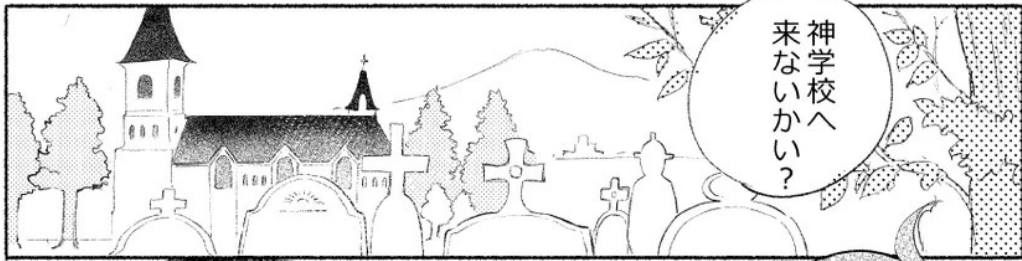


ぼくが
ヴィクトルを
求めていた

はじめて
会った時から



楽園への招待
Episode of Elliot 2



神学校へ
向かう
汽車の中





あの瞳…

全てを
見透かして
いるような
深い青の瞳…

ヴィクトルに
見つめられると
妙な気持ちになる



ふむ

彼の母親が
亡くなったのは
先月の
クリスマスの日

隣町に
買い物に行った
母親が
馬車に轢かれて死亡

気丈に
振舞ってはいるが
心の傷は
癒えていないだろう





明日の
昼には
神学校に着く

今日は
ここで
休むように

それでは
朝になったら
起こすよ

おやすみ



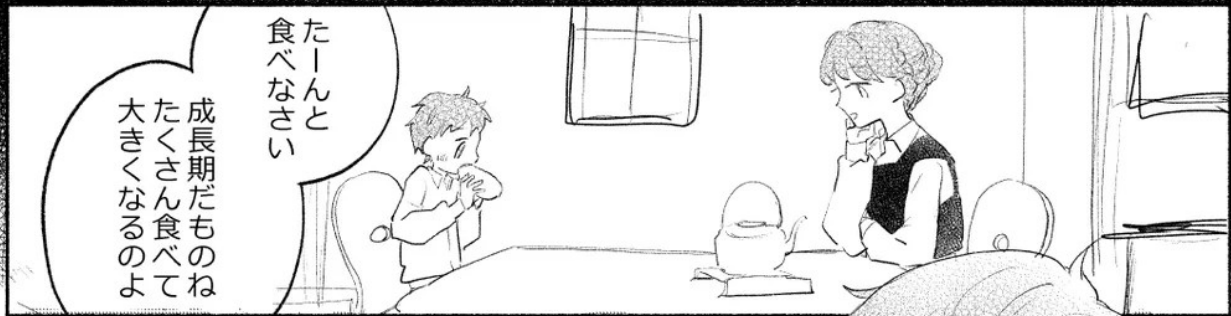
ヴィクトル！
あの人と
一緒になつて
全部変わった

暖かい毛布
神学校
お腹いっぱい
食べることに

今までは
違う
何もかも



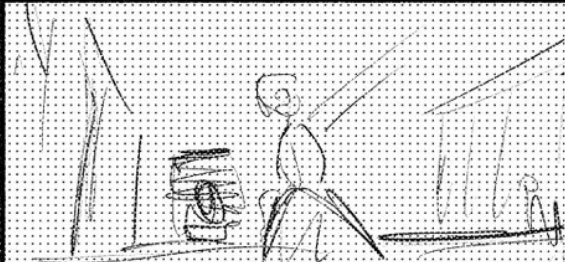
ママ！
おなかすいた！





きつと
ママの分まで
ぼくが
食べていたんだ

亡くなる前
ママは
栄養失調に
なっていた



全部
ぼくのせいだ
ぼくが
クリスマス
プレゼントが
ほしいと
言ったから
ぼくが
わがママを
言ったから
ママは
馬車に
轆かれたんだ

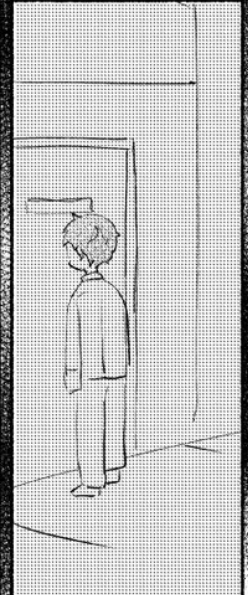


ママが
死んだのは
ぼくのせいだ！

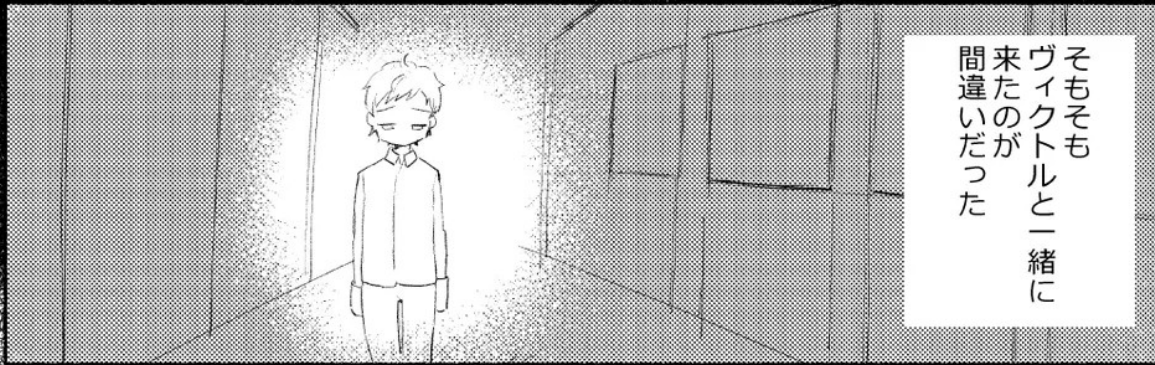


バナナ

エッ？



むし、



そもそも
ヴィクトルと一緒に
来たのが
間違いだった



帰って
ママに
謝らなくちゃ



ぼくは
神学校に
行くべきじゃない



わからない



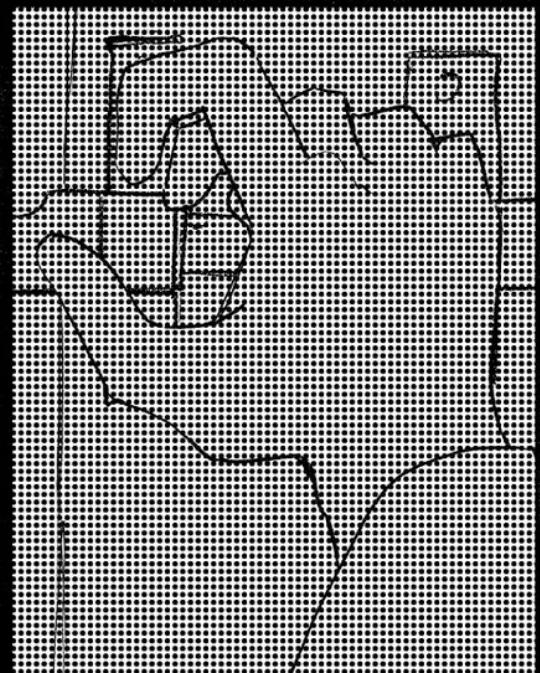
ここは
どこだろう

でも
もう
戻れない



ぼくは
幸せになつては
いけない
生きていては
いけないのに

あれ
ここ
鍵が開く…

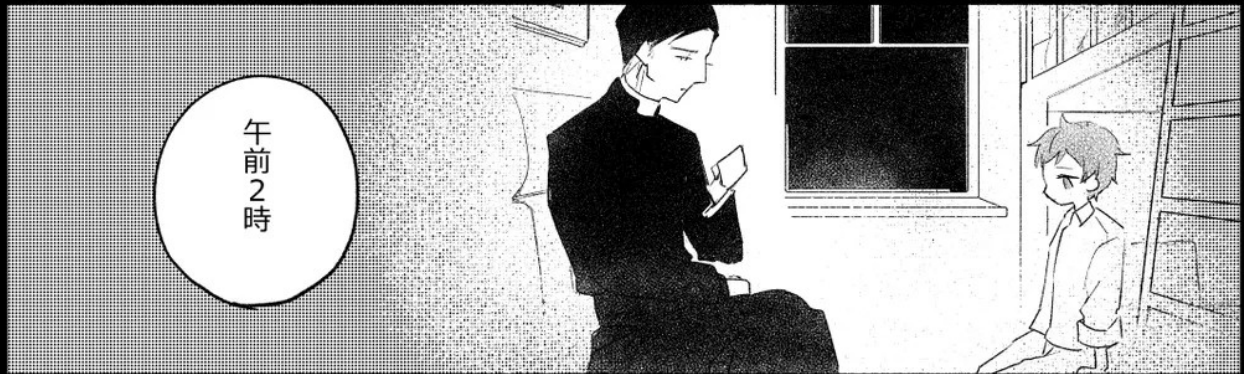




部屋に戻るぞ



何をしている!?



午前2時



人が一番
死ぬ時間だ



かつて私も
孤児だった
きみと同じ



最愛の人？



だから
きみの悲しみは
よくわかるんだ

最愛の人を
失った
悲しみを



神学校の親友
だった

なぜ
その子は
死んだの

それは私にはわからない

だが残された者は考えてしまうのだ

死んだ者のことを

なぜ死んだのか死んでなければ今頃はどうだったか

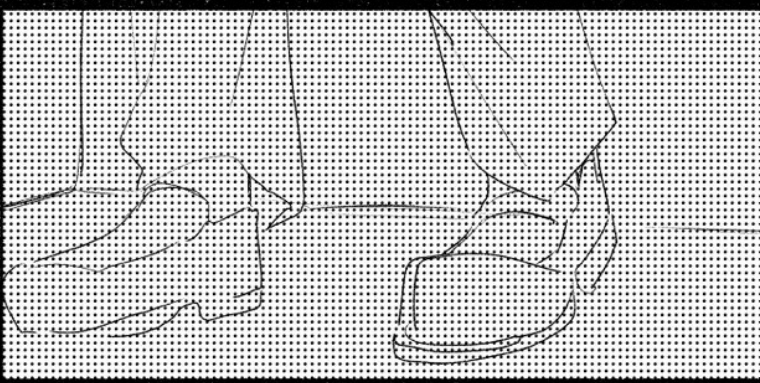
どうすれば死なずに済んだのか

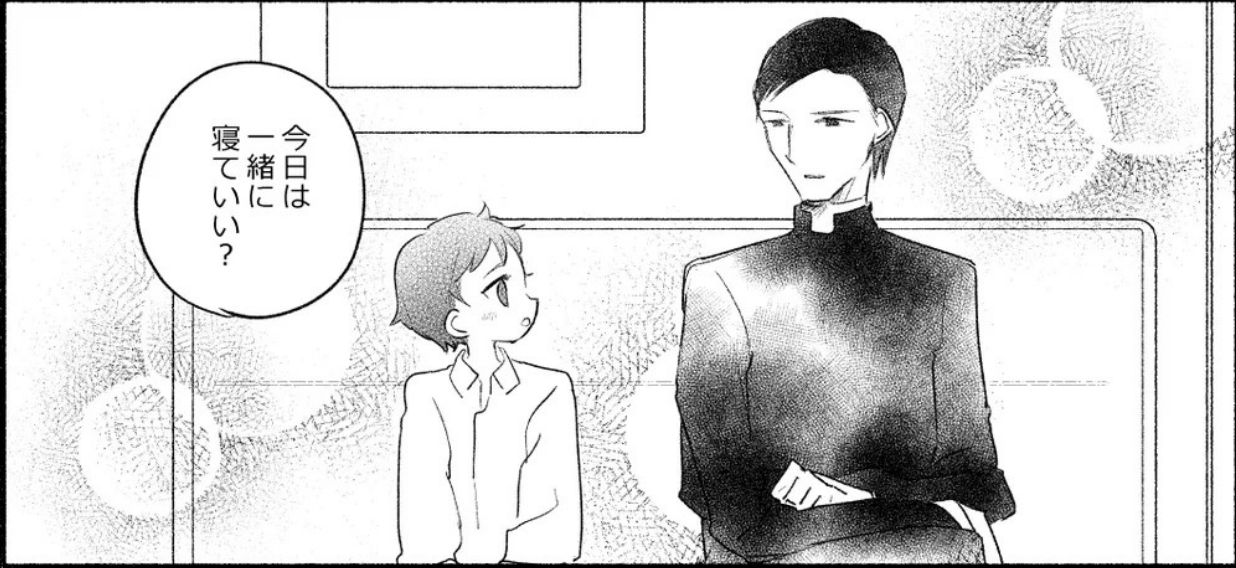


けれど考えても考えても答えは出ない



ヴィクトル





今日は
一緒に
寝ていい？



ああ…
せまくても
いいなら…

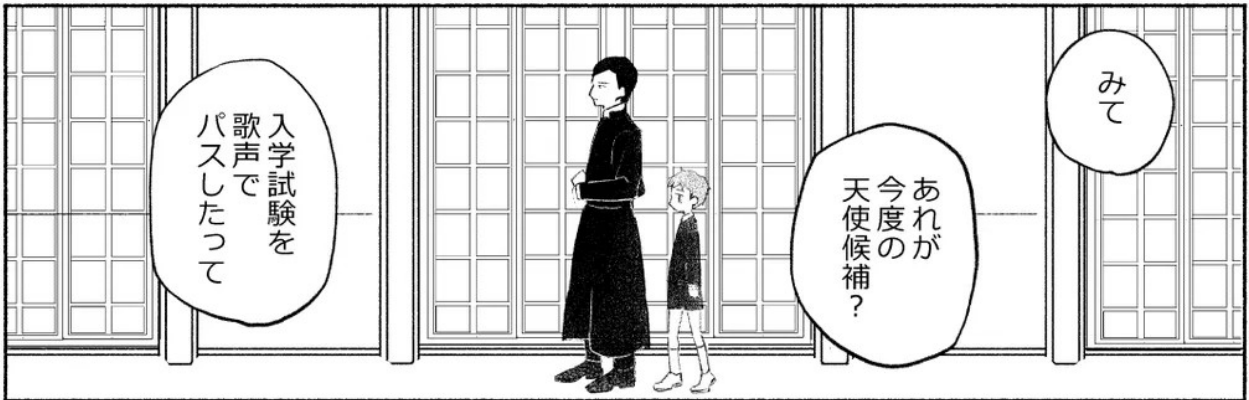
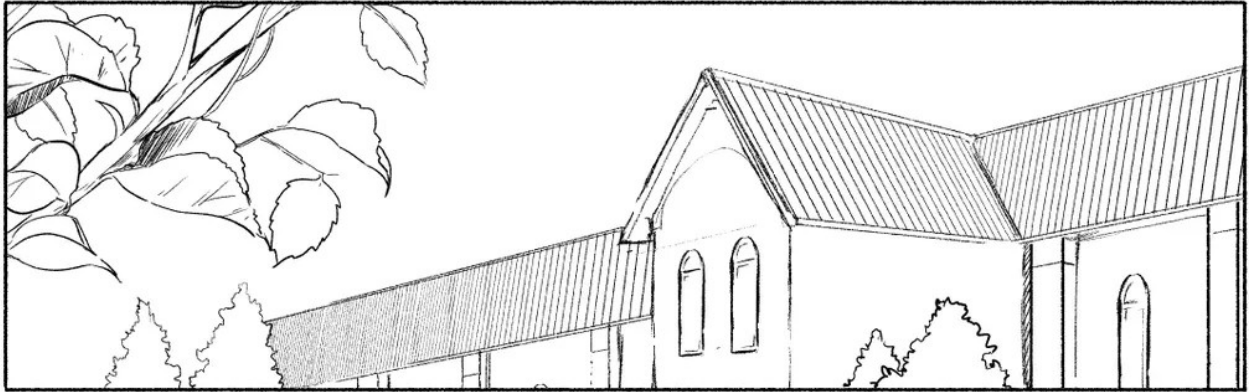
んっ

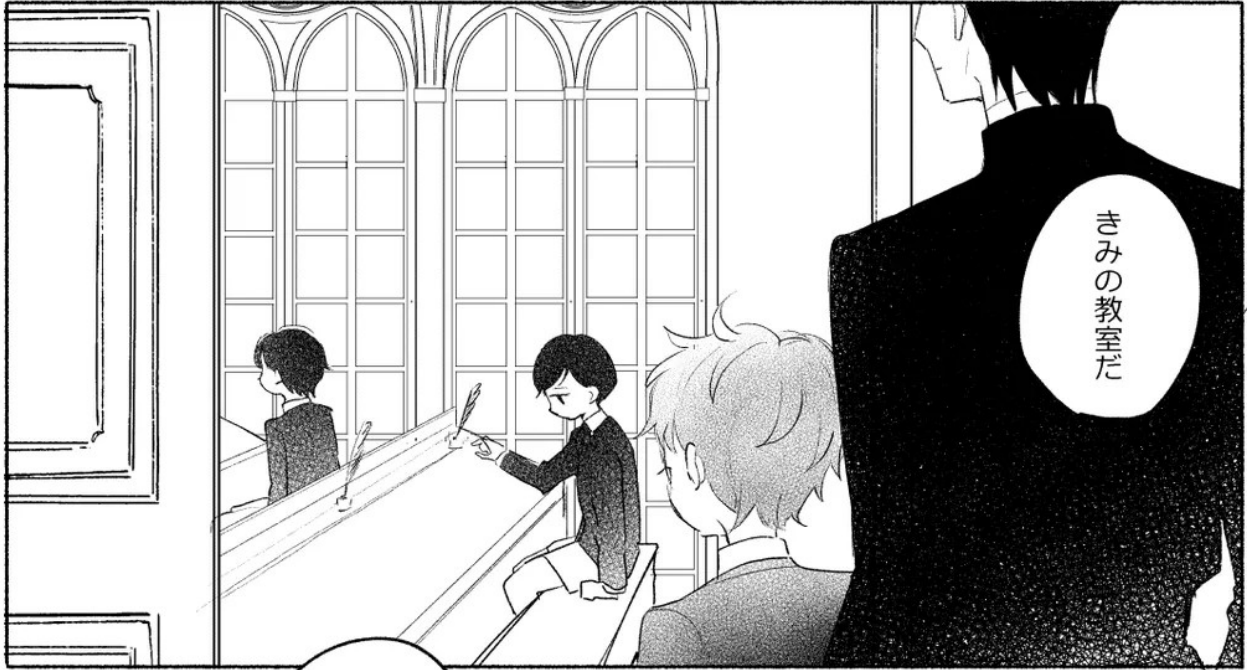


うん



ぼくら
ひとりだと
寂しすぎるから







きみ
名前は？

ぼくの隣が
きみか



ぼくは
ジヨシユア



きみも？

うん
そうだよ！

へえ
じゃあエリオも
聖歌隊に入るんだ



よろしく
エリオ



エリオット？
じゃあ
エリオだね

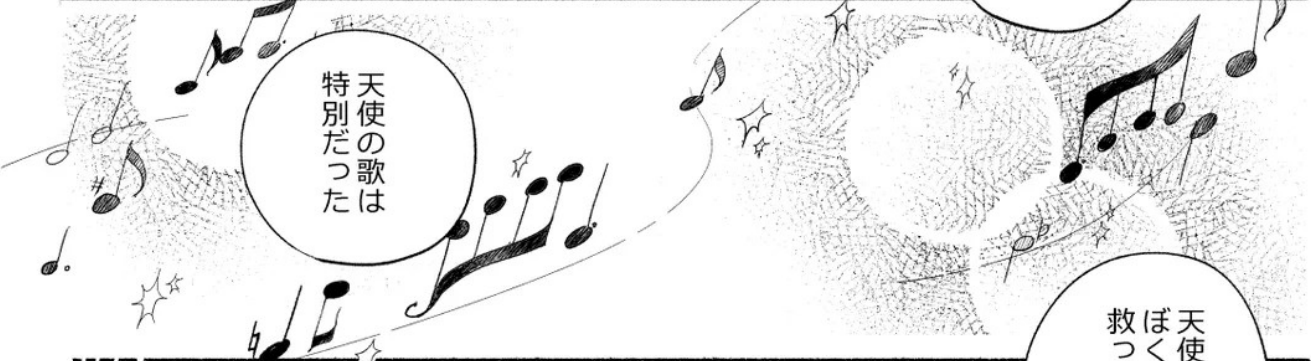


エリオット
だよ



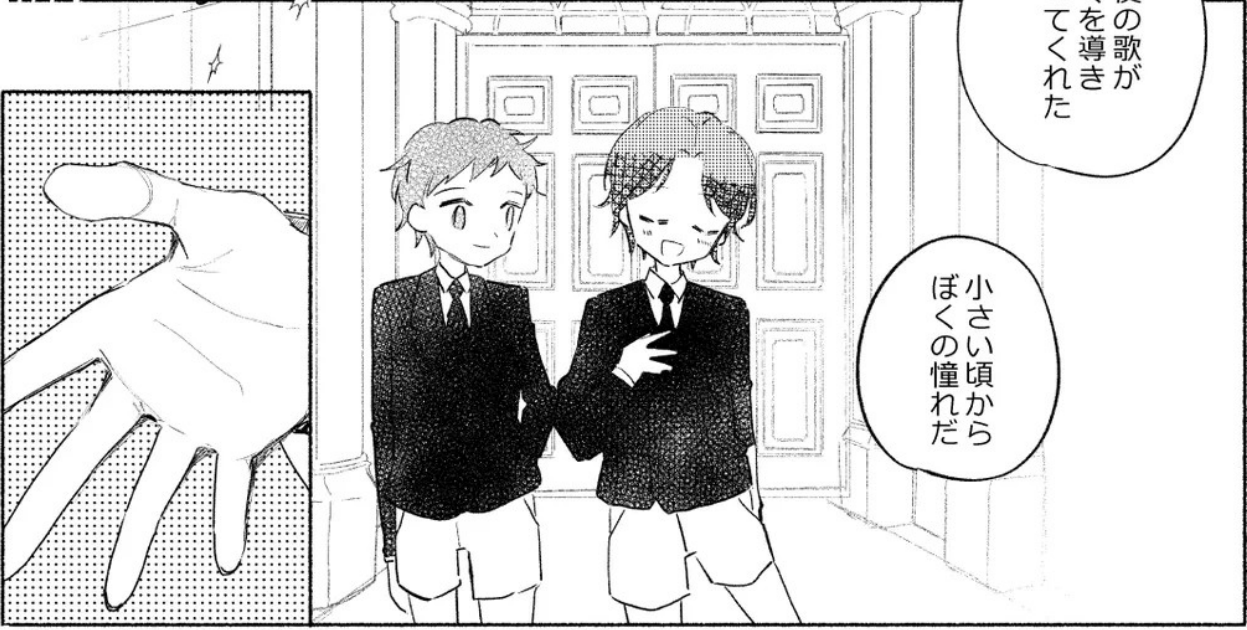


礼拝で
いつも歌う
天使を見ていた

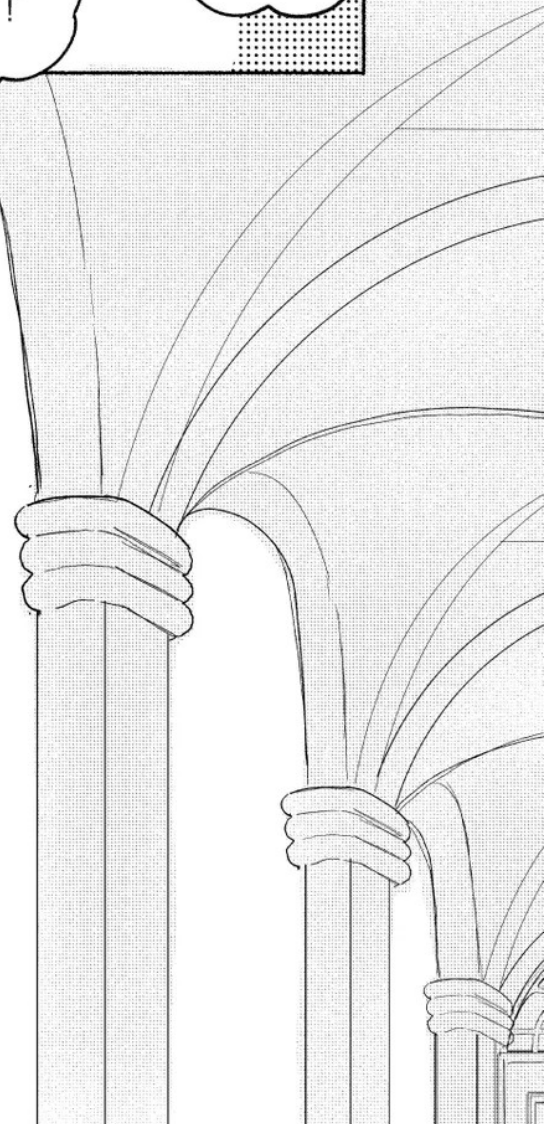


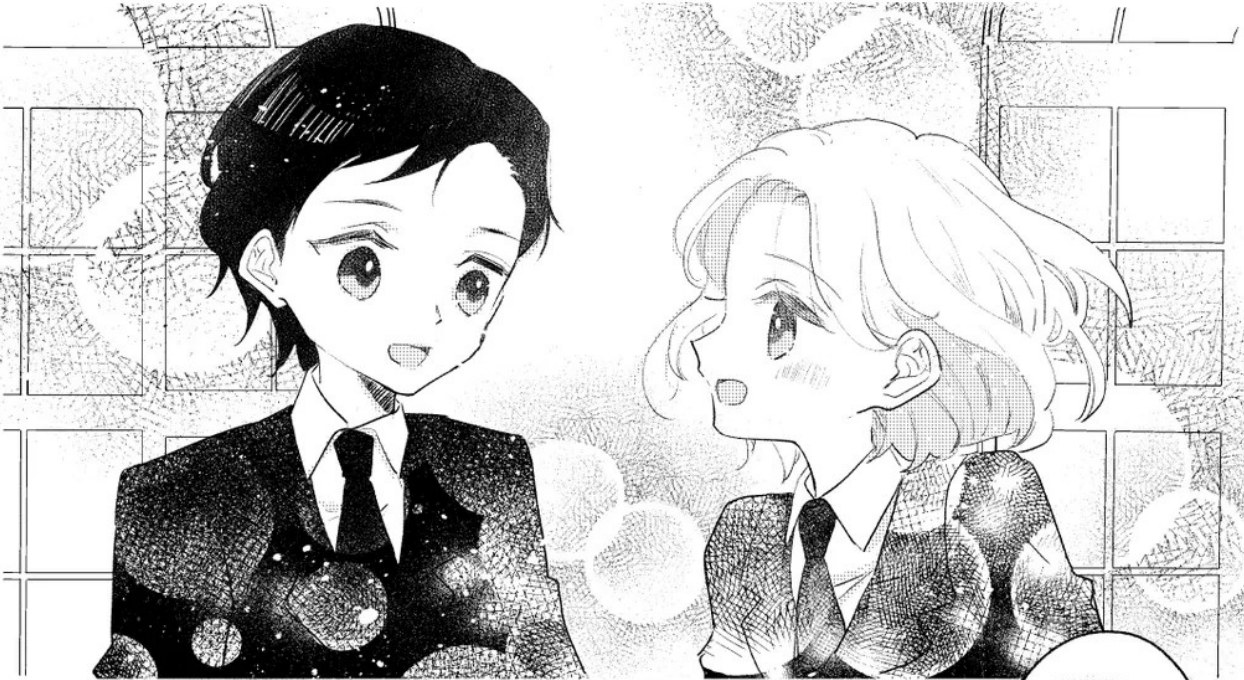
天使の歌は
特別だった

天使の歌が
ぼくを導き
救ってくれた

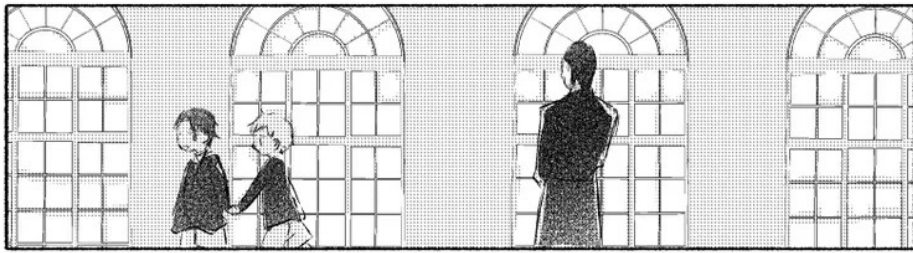


小さい頃から
ぼくの憧れだ

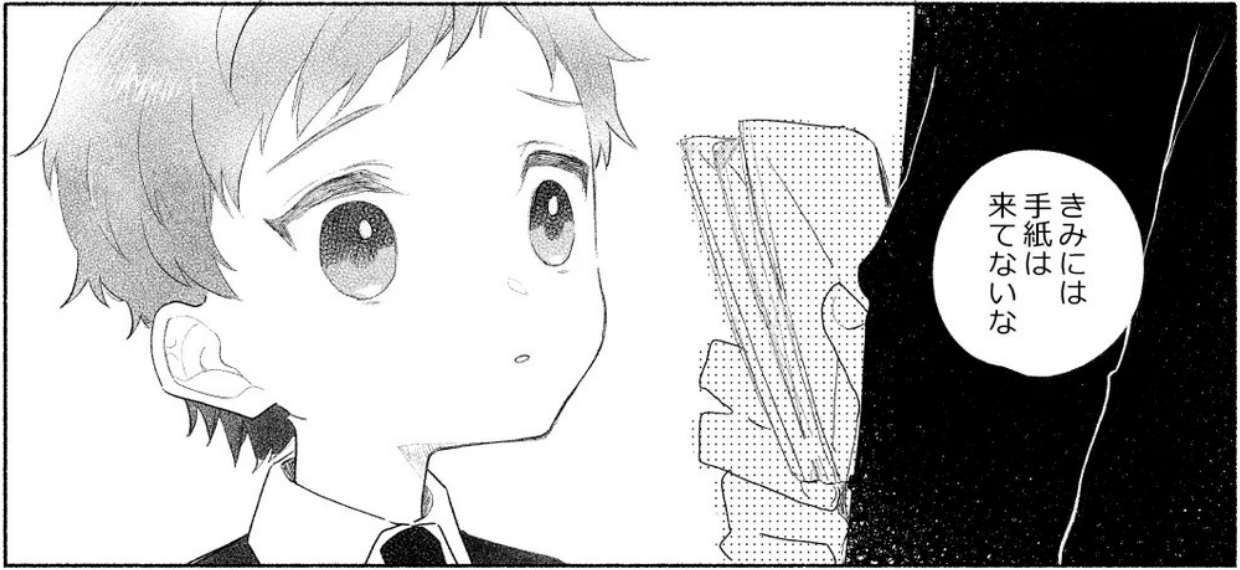












きみには
手紙は
来てないな



うん
ありがとう！
ヴェイクトル



みんな
忙しいのかな…

そっか



エリオ



私は
きみの
家族なのだから



何か
辛いことが
あったら

私を
頼りなさい



神学校に来て
しばらくが
経った



なぜ
ぼくには手紙が
こないのだろう

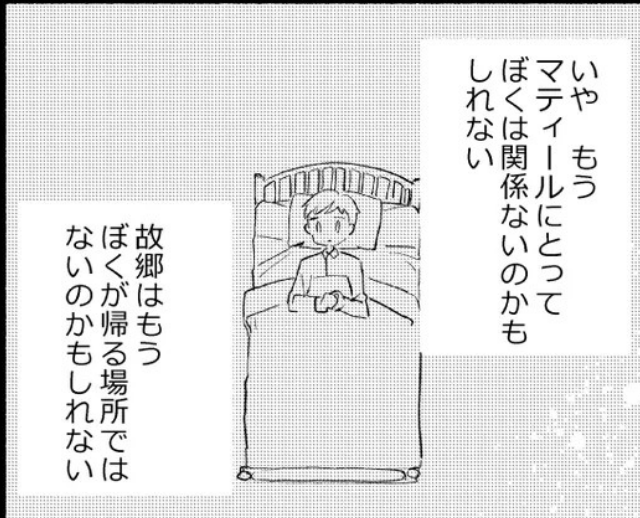


マテイル神父
小さい時から
ずっと
面倒をみてくれたのに

ほらほら
エリオ
寒いだろう！

風邪を引いた
大変だ！
私のコートを
着なさい！



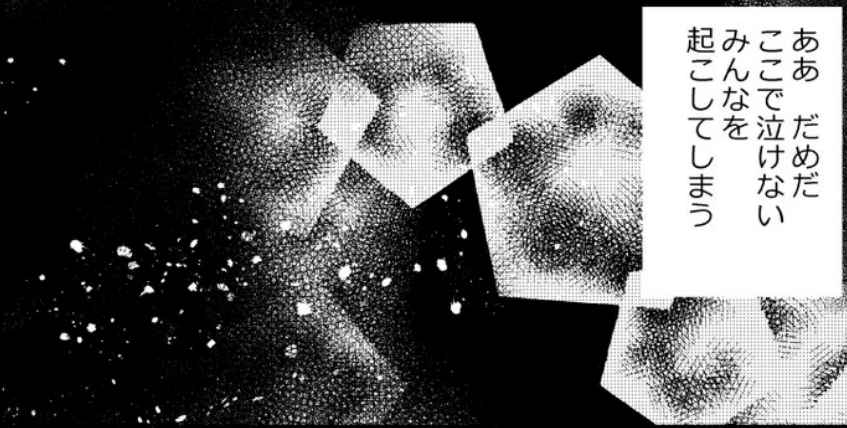


故郷はもう
ぼくが帰る場所では
ないのかもしれない

いや もう
マティールにとって
ぼくは関係ないのかも
しれない



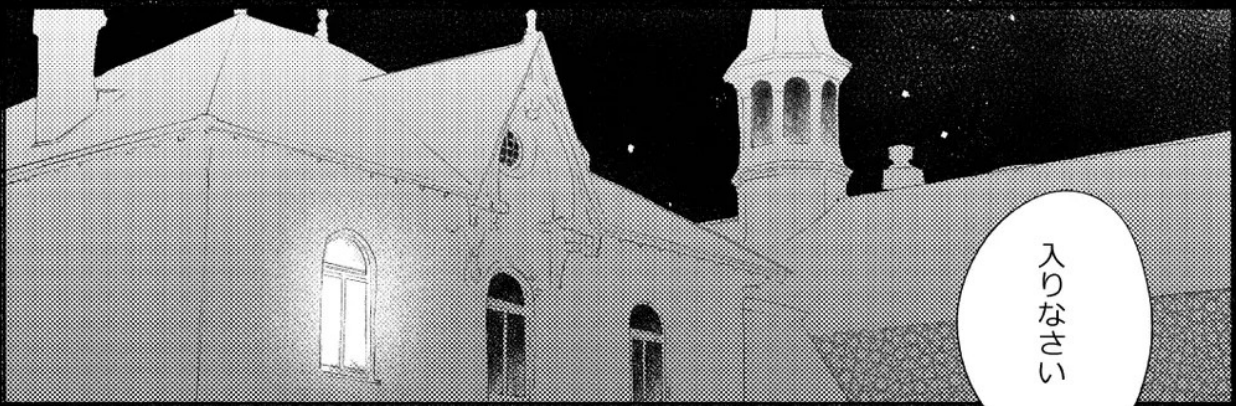
マティール
ぼくの手紙を
読んでくれたかな



ああ だめだ
ここで泣けない
みんなを
起こしてしまう



ぼくは
もう



入りなさい



どうしたんだい





きみの故郷の
教会で
私は見つけた



それは
ちがうよ



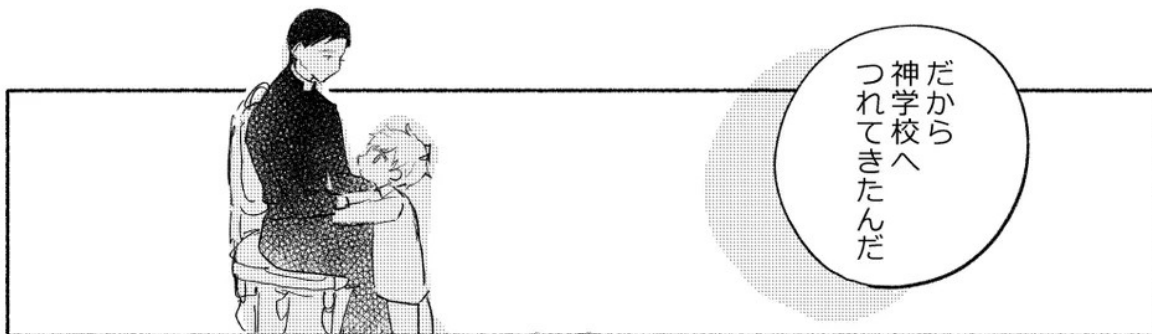
きみの歌を



私は
きみの歌に
救われた

この声は
クリスマス—!?

きみの歌こそ
私の楽園だ



だから
神学校へ
つれてきたんだ



きみと



ともに
過ごしたいと
思ったから



私は
きみが
必要なんだ



ほくろ？

そうだよ
エリオ



すきっ..

ヴィクトル
ほくのじい



ほくが
じいじい
を

ほくを
許して
くれますか
ほくが
生きる
ことを



あなたと
幸せに
なることを



楽園への招待
Episode of Elliot 2

2024.3.10
dot-hermann